

オクラ

アオイ科：アフリカ北東部

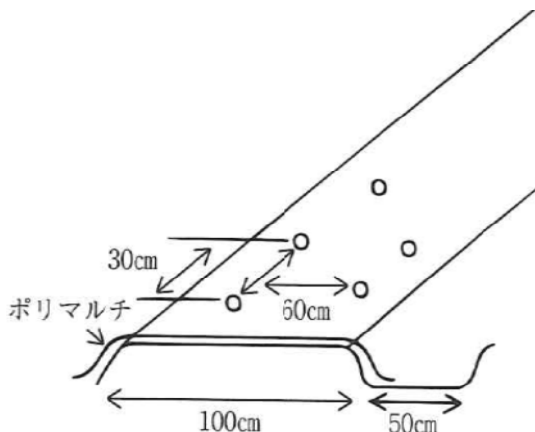
栽培暦

月 旬	3			4			5			6			7			8			9			10			11		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主 な 作 業																											

■栽培のポイント

1. 堆肥と深耕で根を充実させる。
2. マルチを張って地温の確保に努める。
3. 追肥中心で草勢の維持を図る。

■品種・種子量 アーリーファイブ、スターライト。
種子量はa 当たり 0.20。



■播種準備

施肥 直根性の作物で吸肥力が強く、長期の栽培となるため、堆肥を十分に施して深耕し、排水良好で肥沃な土壌を作るようにする。目標の土壌pHは6.0～6.5なので苦土石灰を全面に施して矯正しておくが、適応範囲は広く、強酸性、強アルカリ性でなければ生育する。始めから多肥栽培すると落花が多くなるため、基肥は控えめにし、追肥を主体とする。

マルチ 定植の7日以上前に施肥耕うん後うね幅150 cm (床幅100 cm) にうね立てし、ポリフィルムでマルチし、地温を上げるようにする。最低でも15℃以上を確保する。

■播種 1穴につき4～5粒を1 cmの深さで点播する。種皮が硬いため、種子を一昼夜ぬるま湯に浸漬してから播種すると発芽が良くなる。

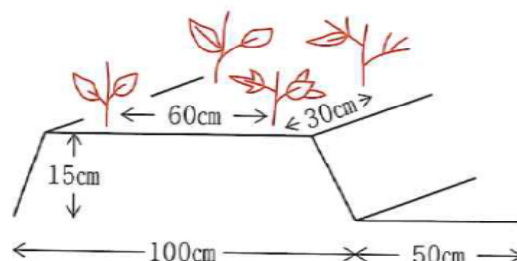
栽植密度 株間30～40 cm、条間50 cm 2条千鳥植え。

施肥例

(a 当り)

うねつくり

肥料名	基肥	追肥	備考
堆肥	400kg	—kg	成分量
CDU-S682 (16-8-12)	12	—	窒素 2.9kg
苦土石灰	10	—	リン酸 1.6
BMようりん	6	—	加里 2.3
麟硝安加里 S604 または NK化成 808	—	6	



■播種後の管理

間引き 本葉 2~3 枚時に 2 本立ちとする。

追肥 第 1 花開花時から生育を見て 3 回程度行う。葉の切れ込みが深く、開花位置が上がってきた時は草勢が落ちている。

適葉 収穫果の下 1~2 枚残して適葉するが、草勢が弱い場合にはさらに 1 枚残す。

■病虫害防除 苗立枯予防として、播種時に十分な地温を確保し、発芽は過湿にならないよう、排水に注意する。害虫ではアブラムシに注意する。その他病害を防ぐため、古い葉はきちんと適葉を行う。またセンチュウに弱いので、連作は避ける。

■収穫 開花後 3~7 日、莢の長さ 8~10 cm のものを収穫する。収穫が遅れると硬化し、すじっぽくなるので注意する。収量は a 当り 150 kg。

ちよつと一服

オクラは北アフリカが原産地といわれているアオイ科の植物です。栽培の歴史は古く、エジプトでは 2 千年以上前から食用にされていました。日本では春に種を播き秋になると寒さのために枯れてしましますが、熱帯地方では枯れずに多年草となり、草丈 5~6m にも生長します。寒さには弱いのですが暑さには強く、夏の暑い時期になると生育が良くなり、たくさんの実を収穫することができます。店頭ではほとんど五角形のものが売られていますが、丸や多角形のものもあります。料理方法が多いので最近よく食べられるようになりました。